



平成 21 年 2 月 16 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 免 疫 生 物 研 究 所
(コード番号：4570)
本店所在地 群 馬 県 高 崎 市 あ ら 町 5 番 地 1
代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 清 藤 勉
問 合 せ 先 経 営 企 画 室 長 木 下 憲 明
電 話 番 号 027-310-8040 (代表)
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

新規アルツハイマー病モデル動物の 販売承認のお知らせ

この度、株式会社免疫生物研究所（本社：群馬県高崎市、社長：清藤 勉、以下「免疫生物研究所」）は、農林水産省から新規アルツハイマー病モデルマウスの販売承認を取得いたしました（平成21年1月21日付）ので、ここにお知らせいたします。

【概要】

現在、アルツハイマー病モデルとしては、**Tg2576** と呼ばれる遺伝子改変マウスが広く使用されております。このマウスは米国で開発され、アルツハイマー型認知症の原因とされているアミロイド B と呼ばれる不溶性タンパク質を効率良く産生するように、APP（Amyloid Precursor Protein）と呼ばれるその前駆体タンパク質の遺伝子配列を一部改変したものです。しかしこのモデルマウスでは、アルツハイマー型認知症の特徴的な病理学的所見である老人斑が認められるまでには、約 12 ヶ月以上の飼育が必要であり、治療候補薬の薬効確認試験などに長期間を要し、全体の開発が長引くため、早期にその特徴が認められるモデル動物が求められておりました。

今回承認されたモデル動物は、アミロイド B を効率良く産生するように、新たにプレセリニン 2（以下「PS2」）と呼ばれる酵素遺伝子配列を一部改変したマウスです。従来のモデルである **Tg2576** と交配することにより、約 2～4 ヶ月で特徴的な老人斑が認められますので、短期間でアルツハイマー型認知症モデルを入手できることになります。

PS2 マウスは、国立大学法人東京大学の井原康夫博士（現、同志社大学）・小山文隆博士・伊藤守博士らによって作製されました。そして平成 18 年 1 月に、免疫生物研究所が国内の独占的な繁殖および販売の許諾を受けております。

なお今後、社内にて本モデルの繁殖を行い、本年夏までに販売を開始できるよう準備を進めてまいります。

以上

用語説明

アルツハイマー型認知症について

アルツハイマー型認知症は、認知機能の障害を主症状とする脳の神経疾患です。アルツハイ

マー型認知症の特徴の一つに、神経細胞表面への老人斑の沈着が見られます。この老人斑の主成分は、アミロイド B と呼ばれる不溶性タンパク質の凝集であり、老人斑の沈着が起こると神経細胞死が急速に広がるため、アルツハイマー病の成因に深く関わると考えられています。

全世界でアルツハイマー型認知症に苦しむ人は**1500万人**を超えるとされ、その数は高齢化が進むにつれ増加しており、大きな社会的な問題として取り上げられています。

株式会社免疫生物研究所について

1982年に、医薬品、医薬部外品および研究用試薬の研究、製造、販売を目的に設立されました。抗体を中心とする免疫学の研究成果と基盤技術を基に、研究用試薬の開発・製造・供給および受託サービスなどからなる研究用試薬関連事業、実験動物の輸入・開発・製造・供給および受託サービスなどからなる実験動物関連事業、医薬シーズのライセンス事業からなる医薬関連事業、及び飲料水販売からなるその他事業を展開しております。また、疾患モデル動物のリーディングブリーダーである米国タコニック社の日本代理店でもあります。従業員は、64名です。